

# 【听译】 爱き夜道



たま

向こうの世界は いつも  
賑やか  
だけど どこか つまら  
なそうだ  
『一緒に笑える』 それだ  
けのこと  
とても大切なこと

たま

対面的世界 总是很热闹  
  
但是 总觉得哪儿 有些  
无趣  
『能一起欢笑』 只有这一  
点  
是最重要的事

---

ランコ

教えてくれた君への感謝  
は  
尽きないけど 「ありがと  
う」とは  
照れくさくて 言えそう  
にない  
今夜も 黙って干杯

ランコ

你告诉我种种的感激之情  
  
无以言表 就连一句「谢  
谢」  
都羞涩得 难以启齿  
  
今晚也 默默干杯

---

たま

ランコ

「忧世郁世」云々 嘆き节  
  
肴に呷る 酒の苦味よ  
けれども染み入り酔いぬ  
のは  
君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「忧世郁世」云云  
悲叹处  
鱼肴塞口 苦酒滑肠  
却说酒醺而未醉  
  
但因有你在身旁

---

**雨天決行**

月夜に想い耽る  
一方的な送り舟  
何時 何時苦しみ酒が染  
み

またあの日を慈しみ  
癖に成る様な嫌な辛味  
酒は進めど蟠り  
杯に君を投影  
する度波纹や花見月  
瞳が嵩を増さす  
揺れる心は過度な摩擦  
笑い話  
にも出来ずに 想いは盥  
回し

**雨天決行**

月夜下思绪渐远  
有去无还的客船  
从何时起 苦酒沁心

又忆起旧时静好  
讨厌却又成瘾了的这辣酒  
推杯换盏 心怒难熄  
欲将你投影于酒盏  
定睛看去却波纹映月  
眼瞳瞪大  
摇摆的心过度摩擦  
言笑之话  
也想不出一句 顾左右而  
言他

**たま**

**ランコ**

それでも  
も回る世界

**雨天決行**

そう変わらず  
二人は存在してる

**たま**

**ランコ**

今でも  
垢抜けない

**雨天決行**

想いが交差し  
後悔し寝る

**たま**

**ランコ**

即便如  
此世界还在旋转

**雨天決行**

对的 不变的  
是两人也还继续存在

**たま**

**ランコ**

现在也  
是蓬头垢面

**雨天決行**

心绪缠结 后  
悔着入眠

**たま**

**ランコ**

**たま**

**ランコ**

向こうの世界は 平穏无  
事

だけど どこか 息苦し  
そうだ

肩の力を 抜き 過ごせ  
る

場所ではないのだろう

対面的世界 平稳无事

但是 总觉得哪儿 喘不  
上气来

是要放下重负忍辱苟活么

现在也还没到那种程度吧

たま

ランコ

「渡世は厌世」云々 恨み  
节

肴に浸る 酒の苦味よ  
けれども染み入り酔いぬ  
のは

君が居るからこそ

たま

ランコ

聊起「渡世即厌世」云云  
悲恨处

鱼肴浸口 苦酒滑肠  
却说酒醺而未醉

但因身旁有你在

ランコ

仆は 名前も 知られて  
ない

君の 周りには 人集り  
だから 仆は  
少し 離れた 場所で  
君を見ていた

ランコ

你甚至都不知道我的名字

你的周围人群拥聚  
所以我选择  
在稍微离远一些的地方  
一直注视着

たま

たま

薄ざわめき 云隠れの月  
妙に 肌寒い 夜の小道  
足元を照らす程度でいい

今夜は 灯りが欲しい

淡淡薄云 遮掩明月  
微微寒风刺骨 夜间小道  
只要能照亮脚边的程度就  
够

今晚想要些灯火

### 雨天決行

当面の予定は未定  
そう透明で依然 差し出  
す両手

二人が見ず知らず  
何て想いだす意気地無し  
未来予想すら

几ら重ねても肥大妄想  
喉を詰まる言いたい事  
弱音を吐き崩れる膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌  
全能まではいかず

「また、いつか」だけは誓  
う

それで明日が始まりだす

実が無い話も根も叶も堀  
り

二人の時間に華を咲かす  
実感出来れば有終の美

### 雨天決行

眼下の予定は尚未确定  
即是未知却依然 伸出的  
双手

两人尚是陌路  
为何会想起懦弱的一面  
就连对未来的预想

诸事重重都是妄想  
想说的事堵在喉口  
说出口却全是软了膝盖的  
泄气话

偶然的夜晚 释然的酒宴  
却不能如愿全能

「那么，何时再聚」只有  
这句约定

就凭这句明日奋斗新的一  
天

完全无实的话却能刨根问  
底

两人的时光如昙花一现  
如果有实感的话也想有

终之美

贵方の立場も重々承知

你的立场我也一清二楚

たま

ランコ

向こうの世界が 幕を闭  
じて

彼らは 大きく 息をつ  
いた

仆らもいずれ 別れるだ  
ろう

それぞれの行く先

たま

ランコ

対面的世界 落下了帷幕

他们开始鼾声四起

我们某日也将相互道别吧

走向各自不同的方向

ランコ

たま

君との別れは ちょっと  
悲しいけど

涙の別れは もっとつら  
い

だから 仆は きっとそ  
の時

笑いながらに言うよ

ランコ

たま

和你的诀别 虽有些悲伤

但流泪的告别 也更难受

所以我决定 到那时一定

会一边笑着一边说

たま

ランコ

雨天决行

二人 騒ぎ 二人 酔い耽  
る

今夜が 最后でもないのに

たま

ランコ

雨天决行

两人喧闹 两人沉醉

明明今晚还不是最后

仆の 视界が ぼやけてい 我的视线渐渐模糊  
く

袖で こっそり拭う 提起衣袖偷偷拂拭

---

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
----	-----	------	----	-----	------

薄云越えて 注ぐ月明かり 穿透薄云洒落的月光  
君と 寄り添って この夜 和你 并肩走在 这条小道  
道  
今夜は 月が明るいけど 今夜月光还算明亮  
もう少し このまま 还想这样继续待一会儿

---

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
----	-----	------	----	-----	------

「忧世郁世」云々 叹き节 聊起「忧世郁世」云云 悲  
叹处  
肴に呷る 酒の苦味よ 鱼肴塞口 苦酒滑肠  
けれども染み入り酔いぬの 却说酒醺而未醉  
は  
君と居たからこそ 但因那时你在身旁

---

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
----	-----	------	----	-----	------

「渡世は厌世」云々 恨み节 聊起「渡世即厌世」云云  
悲恨处  
肴に浸る 酒の苦味よ 鱼肴浸口 苦酒滑肠  
けれども染み入り酔いぬの 却说酒醺而未醉

は

君が居たからこそ

但因那时身旁有你

以上歌词标注了三人配合时每人负责唱的部分，

**たま** 是魂音泉， **ランコ** 是豚乙女， 还有男声

**雨天决行**。歌词用的和语词比较多，意向有些难以把握，上面的翻译只是凭借我个人的理解。

下面给出标上了假名适合跟唱的版本，顺便在右边配上一些难以翻译的字词的解释。这些解释不属于字典上的解释，只是这些字词在这个上下文中我自己的理解：

**たま**

<sup>む</sup>向 <sup>せかい</sup>こうの 世界 は いつも  
<sup>にぎ</sup>賑 やか

だけど どこか <sup>つま</sup>詰 まら  
なそうだ

<sup>いっしょ</sup>『 一 緒 に <sup>わら</sup>笑 える 』 それだ  
けのこと  
<sup>たいせつ</sup>とても 大 切 な こと

**たま**

<sup>む</sup>向 こう：对面，眼前的，  
隐含不属于自己这边的。  
<sup>にぎ</sup>賑 やか：喧嚣，吵杂，热  
闹。

<sup>つま</sup>詰 まらない：无聊，无  
趣。这里用「<sup>つま</sup>詰 まらな  
そう」是表样态，看上去无  
趣的样子。

<sup>わら</sup>笑 える：笑 う的可能态，  
能一起笑。



ランコ

おし きみ かんしゃ  
教えてくれた君への感謝

は

つきないけど「ありがとう」とは

て い  
照れくさくて 言えそう  
にない

こんや だま かんぱい  
今夜も 黙って 干杯

ランコ

つきない：无法完全表达出来。

たま

ランコ

うきよ うつせ うんぬん なげ  
「忧世 郁世」云々 嘆き  
ぶし  
節

さかな あお さけ にがみ  
肴に 呷る 酒の 苦味よ

し い よ  
けれども 染み入り 酔い  
ぬのは

きみ い  
君と 居るからこそ

たま

ランコ

うきよ うきよ  
忧世 即 浮世，佛教厌世观  
うきよ うつせ  
的说法。「忧世 郁世」即是  
说「这个浮躁变换的世界  
也是令人忧郁的世界」。  
ぶし  
节：那时，那一刻，那一点。

あお  
呷る：大口吞下。一般这个动词的宾语是酒或者  
さかな  
毒，这里是 肴

し い よ  
染み入り：酒劲上头。 酔  
いぬ：不醉。

## 雨天決行

つきよ おも ふけ  
月夜に想い耽る

いっぽうてき おく ぶね  
一方的な送り舟

いつ いつ くる さけ し  
何時 何時 苦しみ酒が染  
み

ひ いつく  
またあの日を慈しみ

くせ な よう いや からみ  
癖に成る様な嫌な辛味

さけ すす わだかま  
酒は進めど蟠り

## 雨天決行

おも ふけ  
想い耽る：沉浸在思绪  
中。

这句「有去无还的客船」  
可能指酒宴是开设在客船  
上，并且只有单向，于是  
后文他们需要走夜路。同  
时三途川上接亡者送去冥  
界的渡船也有被称作「有  
去无还的客船」。

いつく  
慈しみ：慈爱。这句「那  
一天」的格助词用を，于  
是「那一天」是「慈爱」  
的宾语。直译的话这句并  
非「想起那一天的慈  
爱」，而是「慈爱起了那  
一天」。

わだかま  
蟠り：语源是千足虫很  
多脚快步走过的样子，引  
申义在这儿可以有两种解  
释，其一是酒杯像虫脚一  
样快快下肚，其二是心中  
烦闷和厌恶之情难以消  
解。

さかずき きみ とうえい  
杯 に 君 を 投影

とうえい  
投影：这里下句加する是做动词，将你投影进杯中。

たび はもん はなみづき  
する 度 波纹 や 花见月

はなみづき  
花见月：花中月，代指农历三月，这里可能是本意也可能是点出时间的引申意。

ひとみ かさ ま  
瞳 が 嵩 を 増 さす  
ゆ こころ かど まさつ  
揺 れる 心 は 過度 な 摩擦  
わ ばなし  
笑 い 話

かさ  
嵩：面积，体积。

でき おも  
にも 出来 ずに 想 いは  
たらいまわ  
盥回 し

たらいまわ  
盥回し：迂回，不切中主题的方式，推诿责任的态度

たま ランコ それで  
まわ せかい  
も 回 る 世界

雨天決行 そう かわら ず  
ふたり そんざい  
二人 は 存在 してる

たま ランコ いま 今 でも  
あかぬ  
垢 拔 けない

あかぬ  
垢抜ける：本意清扫灰尘，延伸到整洁的样子，否定形式表示蓬头垢面的样子。

雨天決行 想 いが 交 差 し  
まま

まま  
想いが交差し：这里歌词

こうかい ね  
後悔し寝る

おも こうさ  
当て字标作「想いが交差  
し」直译是「思绪相互交  
错」，唱出来的是「ま  
ま」两个音。

たま ランコ  
む せかい  
向こうの世界は  
へいおんぶじ  
平穩无事

いきくる  
だけど どこか 息苦し  
そうだ

かた ちから ぬ す  
肩の力を 抜き 過ご  
せる

ばしょ  
場所ではないのだろう

たま ランコ

直译：放开肩膀上的力  
气，挤过去（狭窄的地  
方）。

直译：还没到这样的地方  
吧。

たま ランコ  
とせい えんせい うんぬん うら  
「渡世は厌世」云々 恨  
み ぶし  
み 节

たま ランコ  
とせい  
渡世：佛教用语，在世界  
上生活，度过此生。「渡  
世即厌世」大概是说，必  
须厌倦了这个世界，才能  
度过这个世界。换句话  
说，学会生活在这个世  
界，也就是学会厌倦了这  
个世界。

さかな ひた さけ にがみ ひた  
肴に 浸る 酒の 苦味よ 浸る：浸没。上一段唱的是「肴を呷る」的感觉是像服毒一样大口吃，这句动词改成了 浸る<sup>ひた</sup>，有种被油脂浸没，沉溺在其中的感觉。

けれども 染<sup>し</sup>み 入<sup>い</sup>り 酔<sup>よ</sup>いぬのは

きみ い  
君が 居るからこそ

上一段「君と 居る」用的格助词と 表示「和你在一起」。这句「君が 居る」用的格助词 が 就没有了「和你」的意思。直译：因为你在这里。

### ランコ

ぼく なまえ し  
仆は 名前も 知られてない

きみ まわ ひと たか  
君の 周りには 人集り

ぼく  
だから 仆は

すこ はな ばしょ  
少し 離れた 場所で

きみ み  
君を見ていた

### ランコ

し  
知られてない：知道的被动形式。我的名字没有被动知道。

这里过去式表示从过去就开始，于是多了「一直」

的含义。一直注视着你。

**たま**

<sup>すすき</sup>薄 <sup>くも</sup>ざわめき <sup>がく</sup>云 隠 <sup>れ</sup>の  
<sup>つき</sup>月

<sup>みよう</sup>妙 <sup>に</sup> <sup>はだ</sup>肌 <sup>ざむ</sup>寒 <sup>い</sup> <sup>よ</sup>夜 <sup>の</sup>  
<sup>こみち</sup>小道

<sup>あしもと</sup>足元 <sup>て</sup>を <sup>ていど</sup>照 <sup>らす</sup> <sup>で</sup>程度 <sup>い</sup>でい  
い

<sup>こんや</sup>今夜 <sup>は</sup> <sup>あか</sup>灯 <sup>り</sup>が <sup>ほ</sup>欲 <sup>しい</sup>しい

**たま**

ざわめき：发出微小的响声，这里大概是风吹云飘的声音。

<sup>みよう</sup>妙 <sup>に</sup>：微妙地，稍微有一点。

**雨天決行**

<sup>どうめん</sup>当面 <sup>よてい</sup>の <sup>みてい</sup>予定 <sup>は</sup> <sup>み</sup>未定  
<sup>とうめい</sup>そう <sup>いぜん</sup>透明 <sup>で</sup> <sup>さ</sup>依然 <sup>さ</sup>差 <sup>し</sup>し  
<sup>だ</sup>出 <sup>りょうて</sup>す <sup>りょうて</sup>両手

<sup>ふたり</sup>二人 <sup>み</sup>が <sup>し</sup>見 <sup>ず</sup>知 <sup>らず</sup>らず  
<sup>なん</sup>何 <sup>おも</sup>て <sup>いくじ</sup>想 <sup>な</sup>いだ <sup>な</sup>す <sup>な</sup>意気地 <sup>なし</sup>无  
し

<sup>みらい</sup>未来 <sup>よそう</sup>予想 <sup>すら</sup>すら  
<sup>いく</sup>几 <sup>かさ</sup>ら <sup>ひだい</sup>重 <sup>もうそう</sup>ね <sup>もうそう</sup>ても <sup>ひだい</sup>肥大 <sup>もうそう</sup>妄想  
<sup>のど</sup>喉 <sup>つ</sup>を <sup>い</sup>詰 <sup>こと</sup>まる <sup>こと</sup>言 <sup>こと</sup>たい <sup>こと</sup>事

**雨天決行**

<sup>よてい</sup>予定：今后的安排。

<sup>み</sup>見 <sup>し</sup>ず <sup>し</sup>知 <sup>し</sup>らず：陌生人  
和上句接在一起「为什么会想起我们还是陌生人呢，真没出息」

よわね は くず  
弱音を吐き崩れる  
ひざこそう  
膝小僧

たまにの晩 釈然の  
ばん しゃくぜん  
ばんしゃく  
晩酌

ぜんとう  
全能 まではいかず

ちか  
「また、いつか」だけは誓  
う

あした はじ  
それで明日が始まりだす

み な はなし ね は  
実が無い話も根も叶も  
ほり  
堀り

ふたり じ はな さ  
二人の時間に華を咲か  
す

じっかん でき ゆうしゅう び  
実感出来れば有終の美

あなた たちば じゅうじゅうしょうち  
貴方の立場も重々承知

くず ひざこそう  
崩れる膝小僧：膝盖软，  
表示懦弱。

ね は ほり  
根も叶も堀り：惯用语  
ね ほ は ほ  
根堀り叶堀り表示刨根  
问底。对想说的事情完全  
无法问出口，无关紧要的  
事情却能刨根问底。

ゆうしゅう び  
有終の美：事情有始有终  
的美。也想要好好开始好  
好结束，但不能如愿。

たま

む せかい まく  
向こうの世界が幕を  
と  
闭じて

ランコ

たま

まく と  
幕を闭じる：落下了帷幕

ランコ

かれ 彼らは おお 大きく いき 息を  
つuita

ぼく 仆らもいずれ わか 別れるだ  
ろう

それぞれの ゆ 行く さき 先

---

ランコ たま ランコ たま

きみ 君との わか 別れは ちょっと  
かな 悲しいけど

なみだ 涙の わか 別れは もっとつ  
らい

だから ぼく 仆は きっとそ  
とき の時

わら 笑いながらに い 言うよ

---

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行

ふたり 二人 さわ 騒ぎ ふたり 二人 よ 酔  
ふけ い耽る

こんや 今夜が さいご 最後までないの  
に

ぼく 仆の しかい 視界が ぼやけて  
いく

そで 袖で ぬぐ こっそり 拭う



**たま** **ランコ** **雨天決行** **たま** **ランコ** **雨天決行**

うすくも こ そそ つき あ  
薄云 越えて 注ぐ 月明

かり

きみ よ そ  
君と 寄り添って この

よみち  
夜道

こんや つき あか  
今夜は 月が明るいけど

すこ  
もう少し このまま

**たま** **ランコ** **雨天決行** **たま** **ランコ** **雨天決行**

うきよ うつせ うんぬん なげ  
「忧世 郁世」云々 嘆き

ぶし  
节

さかな あお さけ にがみ  
肴に 呷る 酒の 苦味よ

し い よ  
けれども 染み入り 酔い

ぬのは

きみ い  
君と 居たからこそ

第一段「君と居る」这里  
变成了「君と居た」，过  
去式。

**たま** **ランコ** **雨天決行** **たま** **ランコ** **雨天決行**

とせい えんせい うんぬん うら  
「渡世は 厭世」云々 恨

ぶし  
み 节

さかな ひた さけ にがみ  
肴に 浸る 酒の 苦味よ  
けれども しみ 入り 酔い  
ぬのは

きみ い  
君が 居たからこそ

第二段「君が居る」这里  
变成了「君が居た」，过  
去式，以及没有了第一段的  
「和你」的意思。